市町村社協災害担当・ボランティアコーディネーター研修会

大地震などの災害時には多くの人々が被災地の支援に駆けつけます。ボランティアを受け入れる際に必要な知識を学ぶ「市町村社協災害担当・ボランティアコーディネーター研修会」を11月22日，県立結城養護学校体育館で開催しました。

真剣に講師の話に聞き入る参加者の方々

防災先進県から講師を招いて

講師には大地震の発生が懸念され防災対策に力を入れている静岡県から，静岡県社会福祉協議会生活支援課長の西村慎言（まこと）さん，地域支援課主事の海野（うんの）芳隆さん，菊川市社会福祉協議会在宅福祉係長の伊藤学さんを招き，災害時の要援護者支援の概要や，菊川市で行っている訓練の報告をうかがいました。西村課長は各地の災害現場を訪れた体験から「季節や発生からの時間経過などで，現場のニーズはさまざまに変わります。マニュアルだけに頼らず，訓練を重ねる事が大切です」と柔軟な対応の重要性を強調しました。

西村慎言さん

海野芳隆さん

伊藤　学さん

ビニール袋で炊く非常食

昼食では，災害の現場で役立つご飯の炊き方を体験しました。目盛りの付いたビニール製の「炊飯袋」に米と水を計って入れ，輪ゴムで口を縛ります。この袋を釜の中の沸騰したお湯に漬けてご飯を炊きます。炊飯袋の中には清潔な水を入れますが，釜の中のお湯は飲めない水でも利用でき，釜がなければドラム缶などで代用することも可能です。

「炊飯袋」で炊飯体験

実感した訓練の大切さ

午後は伊藤係長の指導で，県外ボランティアの受け入れ窓口になるボランティア現地本部の立ち上げ訓練を行いました。参加者は二つのグループに分かれ，現地本部の運営スタッフ役と，ボランティア役を交互に行いました。スタッフ役は被災者のニーズを集めたり，ボランティアの登録手続きや，依頼する仕事の割り振りといった現地本部の業務を体験しました。参加者からは「一度目は何をしたら良いか分からなかったが，二度目は落ち着いてできました」など，訓練を重ねる事の意義を実感する感想が聞かれました。また，「先にボランティア役をやったので，スタッフ役はスムーズに理解できました」という感想もあり，双方の立場を理解することの大切さが感じられました。

訓練の大切さを実感した皆さん

被災者の立場に立って

訓練終了後の話し合いの中で，海野主事は「皆さんは今日，ボランティアと運営スタッフの立場を体験されましたが，もう一つ大切なのは被災者の気持ちを理解することです」と話し，被災者支援という活動の目的を再確認しました。伊藤係長は「災害時の被災者支援は行政だけでも，住民だけでもできません。」と行政と住民の間に立ち社会福祉の推進を担う社協の役割を訴えました。

いばらきの社会福祉
Social Welfare of Ibaraki

発行者／社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
〒310-8586 水戸市千波町１９１８
電話　029(241)1133(代)
FAX　029(241)1434
ふくしネットワークいばらき
(http://www.ibaraki-welfare.or.jp/)
(E-mail ibashakyo @ibaraki-welfare.or.jp)
PRINTED WITH SOY INK 環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています。
携帯電話で読み取るだけで簡単に「ふくしネットワークいばらき」にアクセスできます。